

Junko News



総合内科の診療体制と地域医療への取り組み
—「必要とされる医療」を県北地域へ—



総合内科診療スケジュール

月 火 水 木 金 土 日

午前 ○ ○ ○ ○ ○ - -

午後 ○ - - ○ - - -

休診日：土・日・祝

特集
総合内科

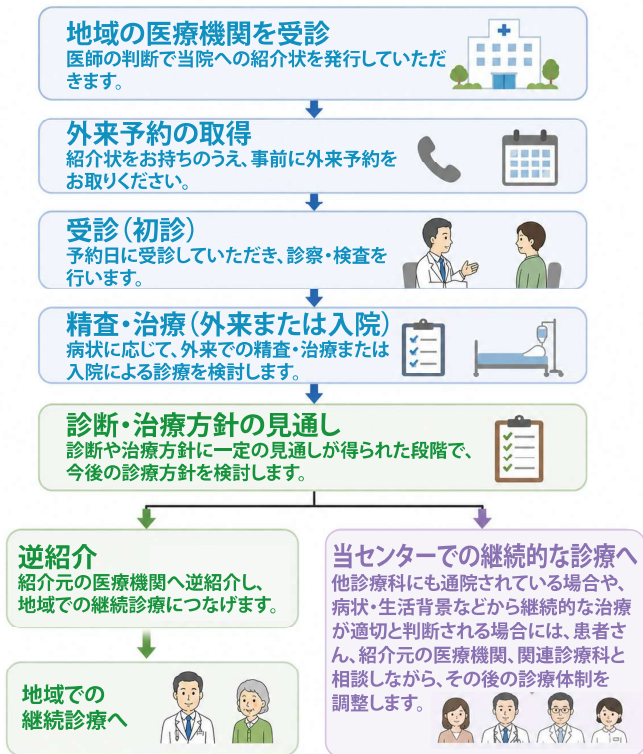
総合内科の本格始動

2025年9月から診療体制の整備を開始し、2026年4月には8名体制となりました。総合内科は、一般内科診療を基盤として、外来診療と入院診療に取り組んでいきます。循環器・呼吸器疾患の高度専門医療を担う当センターにおいて、臓器別の専門診療を支えるとともに、複数の疾患を併せ持つ患者さん、症状の原因となる臓器や受診すべき診療科が定まっていない患者さん、高齢者救急などに幅広く対応することが当科の役割です。

当科では、全スタッフが一般内科診療に携わりながら、消化器、内分泌・糖尿病、脳神経内科、感染症、アレルギーなど、それぞれ

総合内科長 兼 診療部長
Dr. 小林 威仁 Takehito KOBAYASHI

受診・紹介の流れ



※ 状況に応じて、上記の流れは変更となる場合があります。

の専門性を生かした診療を

行います。

診断や治療に専門的

判断が必要な場合には、院内各診療科や地域の医療機関と速やかに連携し、患者さんにとって適切な診療につなげます。

診療方針 「必要とされる医療」

私たちは、「必要とされる医療」を診療の基本に据えています。患者さんの疾患だけでなく、生活背景や価値観、ご家族の思いにも配慮し、検査・診断・治療の内容を分かりやすく説明したうえで、納得できる診療方針を共に考えます。

医療では、必ずしも望ましい結果だけを得られるとは限りません。厳しい病状に直面する場合にも、患者さんとご家族に誠実に向き合い、院内外が多職種と協力しながら、他責することなくその時点で最も適切と考えられる医療と支援を検討します。

また、非がん疾患を含め、専門的治療後も症状緩和や療養支援を必要とする患者さん、根治的・積極的治療の適応がない、または治療継続が困難な悪性疾患の患者さんについて、院内の専門診療科と連携して緩和ケア領域も対応します。訪問診療や在宅療養が必要な場合には当科で患者さんの状況に応じて適宜検討します。

また、非がん疾患を含め、専門的治療後も症状緩和や療養支援を必要とする患者さん、根治的・積極的治療の適応がない、または治療継続が困難な悪性疾患の患者さんについて、院内の専門診療科と連携して緩和ケア領域も対応します。訪問診療や在宅療養が必要な場合には当科で患者さんの状況に応じて適宜検討します。



DOCTOR's PROFILE

埼玉医科大学卒業後、呼吸器内科および大学院で永田真先生を師事し重症喘息の病態研究に取り組む。学位取得後はMayo ClinicのAllergy Disease Research Laboratoryで好酸球研究に従事し、帰国後は故中元秀友先生率いる総合診療内科で臨床・教育・研究に携わった。2025年9月から当センターに勤務し、現在は総合内科科長兼診療部長、埼玉医科大学客員教授として、総合内科の診療体制整備と若手医師教育に取り組んでいる。

診療曜日 月

主な資格

- 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
- 日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医
- 日本喘息学会喘息専門医、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医
- 日本病院総合診療医学会指導医
- 臨床研修指導医
- 日本医師会認定産業医
- 日本スポーツ協会公認スポーツドクター
- 難病指定医
- 身体障害者福祉法15条指定医師(呼吸器・腎・肢体不自由)

県北地域における総合診療の意義

当センターがある北部保健医療圏は、厚生労働省が2025年4月1日時点で公表した「医師少数区域」に指定されています。また、日本専門医機構の総合診療専門研修プログラム整備基準では、医師少数区域・医師少数スポット等を、「医療資源の乏しい地域」を判断する基準の一つとしています。

県立病院としての高度専門・政策医療を継続しながら、県北地域で増加する高齢患者さんや、複数の併存疾患を持つ患者さんに対応するためには、臓器別専門診療と総合診療を組み合わせた診療体制が必要です。当科は、院内の専門診療科を補完し、地域医療機関からの紹介に可能な限り応え、とともに、適切な逆紹介を通じて地域全体で患者さんを支える体制づくりに取り組めます。

新たな環境改善と、もう一つの選択肢

これまで、当センターは高度な設備を備えて先進医療の実践に従事してまいりました。ただ、院内の各専門診療科を受診なさっている患者さんが複数の併存症を抱えた場合には、専門領域以外の併存症を他院に管理していただくことがほとんどでした。これは患者さん・ご家族に少なからずご負担をおかけしていたと思いますが、内科領域においては当科が協力できる機会を増やしていきたいと考えております。



これまで主治医の先生があまりにも一生懸命で言えなかった…

積極的な医療の選択肢があるのは十二分に分かりますが、自然な経過に委ねる方針を選びたい

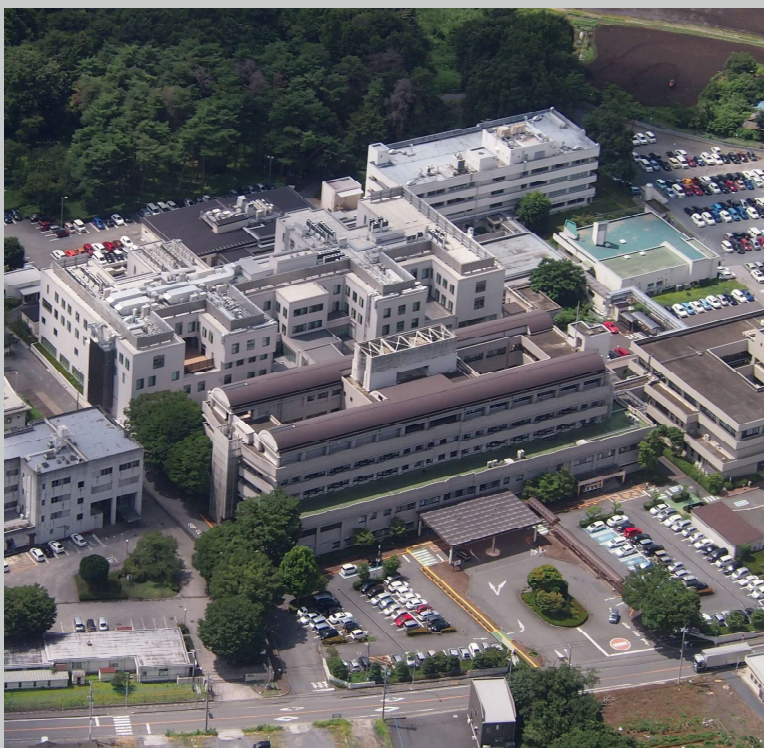
つらい症状をとってほしい



積極的な方針を選択しなければ他の施設に送られてしまうのかしら…



あなたの「本音」を聞かせてください。そこから始まる医療があります。



患者さんに寄り添い、

ともに選ぶ医療を

私たちはありのままの状況を共有し、目の前の患者さんとの共通の目標、診療計画を導き出していければと思っています。積極的な医療を望まれる場合は当センターの最新鋭の医療設備を用いながらハイスペックの専門領域スタッフと協力して臨みます。対症療法として現在抱えている苦痛を取り除いてほしい場合には、病態を見極めて的確な対応を心がけ、患者さん・ご家族の満足度が高い医療を目指します。このような選択肢もあるのだとご理解いただき、まずは皆さんの想いをお聞かせいただけたらと思います。

感染症領域

～感染の原因と重症度を見極め、
最適な治療を～

感染症が疑われる患者さんについて、症状と身体所見、画像検査、培養検査などを組み合わせ、感染臓器・原因微生物・重症度を総合的に評価したうえで治療方針を決定します。ウイルス、細菌、真菌などによる感染症に加え、まれな病原体が疑われる場合には、必要に応じて大学病院や研究機関、各領域の専門家と連携して対応します。



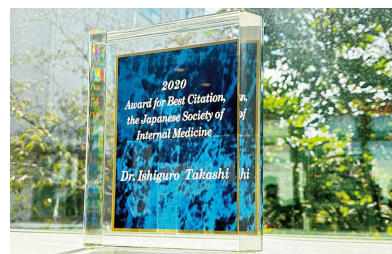
診察曜日 月・木

DOCTOR's
..... PROFILE

2026年3月まで呼吸器内科副部長、4月から現職。日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医、そのほか厚生労働省の研究班員（現在は「日本医療研究開発機構：AMED」）や国内で行われる各種研究の共同研究者、国内のガイドライン作成委員を務める。これまでに手がけた研究論文は、筆頭著者として100篇以上、共著者としては300篇以上にのぼりアジア太平洋呼吸器学会の国際学術誌Respirologyのアドバイザーボードとして国内外から投稿される研究論文の査読を行う。また、国内で開催される学会で特別講演を行うなど、国内の医療水準の向上に尽力。神奈川県出身。
趣味はスポーツ観戦と子供の送迎。

総合内科 副診療部長 Dr. 石黒 卓 Takashi ISHIGURO

2026年3月まで呼吸器内科 副部長として勤務しておりましたが、4月から総合内科 副部長を拝命しました。患者さんから症状を詳細に教えていただき、診察と検査を通して正確な診断につなげたいと考えております。特殊な疾患が疑われるときは全国の専門家へ診療を依頼することもあります。モットーは、「丁寧な診療」です。



受賞したInternal Medicine誌の
Best Citation Award楯

脳神経内科領域

～こんな症状はありませんか？
総合内科でご相談ください～

しびれ、めまい、力が入りにくい、歩きにくい、ふらつき、つっぱり、けいれん、むせ、話にくい、ものが二重に見える、頭痛、手足や体が自分の意思とは関係なく動く、もの忘れ、意識がもうろうとする、意識を失うなど、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気が疑われる症状を診療します。

まず当科にて全身を診察して症状の原因を見極め、必要に応じて手術が必要であれば脳神経外科、骨や関節の病気が原因であれば整形外科、見えにくいや聞こえにくい場合は眼科や耳鼻咽喉科、ほか心身なものであれば精神科などの近隣の関係診療科と連携します。

これらの症状に心当たりがおありなら、一度当外来に受診していただくことをお勧めします。



Dr. 富岳 亮 Ryo TOMIOKA

DOCTOR's
..... PROFILE

昭和61年埼玉医科大学神経内科に入局し、医学博士を取得したのちオーストラリア、ラ・トロブ大学へ留学。2004年 埼玉医科大学神経内科講師、2012年 金沢医科大学神経内科准教授。2016年 金沢医科大学氷見市民病院 神経内科臨床教授。学生の教育から現場の診療まで走り回り、2026年4月から当センターに従事。

診察曜日 火AM

主な資格

- 内科認定医
- 神経内科専門医・指導医
- 頭痛専門医・指導医

●神経免疫診療認定医 など

一般内科

～原因不明の症状に、総合内科で向き合う～

当科では、原因のわからない症状、血液検査や画像所見に対し、総合内科、院内各診療科、検査部門、薬剤部、看護部などのスタッフと協力して早期診断と適切な治療につなげます。例えば、発熱や炎症反応の上昇が続く一方で原因が明らかでない、いわゆる不明熱・原因不明の炎症の患者さんを診た際は、感染症だけでなく膠原病、悪性腫瘍、薬剤などを含めた幅広い視点での診療が必要です。横断的な視点でひとつずつ病態を解き明かして参ります。

診察曜日 火AM

呼吸器科領域

～呼吸器内科・外科と連携して総合的に診療～

呼吸器感染症、喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支拡張症、間質性肺疾患、希少疾患（自己免疫性肺胞蛋白症、原発性線毛機能不全症など）などの呼吸器疾患を呼吸器内科、呼吸器外科と連携して診療します。また、当科では睡眠時無呼吸症候群の診療も積極的に行っており、病態・タイプの評価から治療まで対応しております。

診察曜日 月・木

内分泌・糖尿病領域

～甲状腺疾患から糖尿病まで、専門的な診療を提供します～

Dr. 吉川 元 Gein YOSHIKAWA

バセドウ病をはじめとする甲状腺疾患などの内分泌疾患と、内服薬・注射製剤による治療を必要とする糖尿病の診療を行います。

甲状腺中毒症や甲状腺機能低下症には内科的治療を行い、甲状腺結節など、より詳しい検査や処置が必要な場合には適切な医療機関へ紹介します。

糖尿病では、必要に応じて糖尿病学入院に対応し、退院後の外来診療へつなげます。外来では栄養指導と連携して生活習慣の見直しを支援し、患者さんの状態に応じた薬物療法を提案します。

今後は院内の栄養部門とも連携し、合併症予防と、適応基準を満たす肥満症患者さんへの診療体制の拡充を目指します。

診察曜日 水AM・木AM

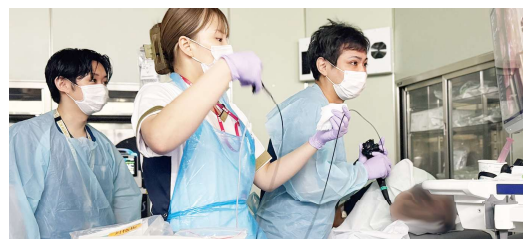


消化器領域

～おなかの不調を、幅広い視点で診断・治療～

食道・胃・十二指腸・大腸などの消化管疾患に加え、肝臓・胆のう・膵臓疾患の診療を行います。上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、CT、MRI、腹部超音波検査などを用いて、消化器疾患の診断に取り組みます。

大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）にも対応します。また、肝がん、膵がん、胆道がんなどが疑われる場合には必要な検査を行い、専門的治療が可能な医療機関と連携して適切な治療につなげます。腹痛、胸やけなどの症状や、指摘された場合には、紹介元医療機関を通じてご相談ください。



Dr. 鴛田 正樹
Masaki TOKITA

診察曜日 金AM



Dr. 齋能 和輝
Kazuki SAINOU

診察曜日 水AM



2027年度より当センターで総合診療専門研修プログラム
が開始される予定となっております。

私はその登録第1号として研修開始を予定しており、現在はプログラム開始に向けて準備を進めているところです。総合診療を志した理由は幅広い医学的知識を身につけ、特定の疾患だけを見るのではなく、患者さんの生活背景や価値観なども含めて総合的に考え、より良い選択をできる医師になりたいと思ったからです。当センターでの研修を選ぶ大きなきっかけとなったのは科長の小林威仁先生にお声掛けいただいたことでした。



実際に勤務を始めてみて、設備が整っていることはもとより、それぞれの専門領域を持った上級医の先生方から直接指導を受けることができ、日常診療を通して幅広い知識を学べる環境が整っていると感じました。さらに多職種間でのコミュニケーションのハードルが低く、相談しやすい環境であることも当センターの魅力だと感じています。総合診療では医学的知識だけでなく患者さんを取り巻く様々な問題を把握し多職種で協力して解決していく力も重要です。今後の研修を通して一つ一つの症例に真摯に向き合い、幅広い視点から患者を診ることのできる総合診療医を目指していきたいと思います。

若手医師の教育と地域への定着



2027年度の研修開始を目指し、総合診療専門研修プログラムの基幹施設申請と教育体制の整備を進めています。今後は、内科専門も視野に入れ、地域医療を担う若手医師を継続的に育成できる体制の構築を目指します。

埼玉県医師育成奨学金制度では、総合診療を担う診療科が「**準特定診療科**」に位置付けられています。当科では、奨学金貸与医師が義務従事と専門研修を両立し、専門医資格の取得と地域医療への貢献を一

貫して進められる研修体制を検討しています。

当センター周辺には、熊谷市の荻野吟子、深谷市の渋沢栄一、本庄市の塙保己一など、地域と社会に貢献した先人の足跡があります。私たちもその歩みに学び、患者さん・ご家族、地域の医療従事者、若手医師が互いに支え合える診療科を育ててまいります。

総括責任者 総合内科 科長兼診療部長 小林 威仁

X (旧 Twitter) で情報発信中！

病院からのお知らせのほか、結核病棟を持ち、2類感染症に対応する医療機関として感染症流行情報なども発信しています。Xを始めたのは、患者さんやご家族、地域の皆様に当センターを知ってもらいたいという意識からです。発信する情報が健康意識や当センターへの関心などのきっかけになればうれしく思います。皆様のフォロー、いいね、ぜひよろしくお願いします。



公式SNS
やっています

